

授業科目	特別支援教育入門			授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	阿部伸一、長崎郁夫						
ナンバリング	E22S122	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	特別な支援を必要とする子どもの特性に合わせながら、どのように見守り、どのようにリードし、どのように社会ルールを示していけるか、講義や演習を通して学びながら考えていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする子ども達の行動から、彼らの困り感や本当にしたいことを読み取れるようになる。そのための記録方法に習熟する。 ・教育課程の枠組みの中で、特別な支援を必要とする子ども達の個別支援計画の作成と他の教員等との組織的連携の意義とその方法を理解する。 ・「わからなさ」や「できなさ」を助ける具体的な方法について学び実践できるようになる。 ・模擬保育場面で保育者としての課題や子ども達の思いを感じ取れる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(5)「自分の価値観に基づいて判断し、実践することができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション (担当 阿部)				
		内容	講義の進め方 障害の概念と対象について理解する。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 「障害とは？」について調べ、まとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。				
	第2回	テーマ	特別支援教育の歴史・理念 (担当 長崎)				
		内容	障害児保育の歴史的変遷と、現在の障害児保育を理解する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 障害児保育の歩みについて、調べておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を見直す。				
		テーマ	特別支援教育の教育課程と個別支援計画、特別支援教育の制度と組織的対応 (担当 長崎)				
		内容	特別支援教育におけるカリキュラムや計画を事例に示しながら、その教育課程・計画を理解していく。さらに、特別支援の根拠の法令を踏まえて、制度・組織的体制を理解していく。				
	第4回	授業時間外学修	予習： 特別支援の必要な子どもたちは、保育・教育・社会など、どのような形で受けているかをまとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を見直す。				
		テーマ	子どもの発達のみちすじ (担当 阿部)				

4 回	内 容	子どもの発達を理解する基本的視点（発達の順序・方向性・発達の個人差）を通して、子どもの発達のみちすじを理解する。
	授業時間外 学修	予習： 子どもの発達状態を調べておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点を見直す。
第 5 回	テーマ	知的障害（特性と対応）（担当 阿部）
	内 容	知的障害の定義・臨床症状・支援の仕方を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 発表グループは知的障害の定義・臨床症状・支援の仕方をまとめる。 復習： 授業内容・ワークシートを見直し、要点や疑問点を見直す。
第 6 回	テーマ	発達障害（特性と対応）（担当 阿部）
	内 容	発達障害の定義・臨床症状・支援の仕方を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 発表グループは発達障害の定義・臨床症状・支援の仕方をまとめる。 復習： 授業内容・ワークシートを見直し、要点や疑問点を見直す。
第 7 回	テーマ	聴覚・視覚障害（特性と対応）（担当 阿部）
	内 容	聴覚・視覚障害の定義・臨床症状・支援の仕方を理解する。
	授業時間外 学修	予習： 発表グループは聴覚・視覚障害の定義・臨床症状・支援の仕方をまとめる。 復習： 授業内容・ワークシートを見直し、要点や問題点を見直す。
第 8 回	テーマ	肢体不自由・重症心身（特性と対応）（担当 阿部）
	内 容	肢体不自由・重症心身の定義・臨床症状・支援の仕方をまとめる。
	授業時間外 学修	予習： 発表グループは肢体不自由・重症心身障害の定義・臨床症状・支援の仕方を理解する。 復習： 授業内容・ワークシートを見直し、要点や問題点を見直す。
第 9 回	テーマ	知的障害（症例の分析・理解）（担当 阿部）
	内 容	知的障害の症例の映像視聴を通して、グループワークをしながら、分析・理解する。
	授業時間外 学修	予習： 知的障害の定義・臨床症状・支援の仕方を確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。
第 10 回	テーマ	発達障害（症例の分析・理解）（担当 阿部）
	内 容	発達障害の症例の映像視聴を通して、グループワークをしながら、分析・理解する。
	授業時間外 学修	予習： 発達障害の定義・臨床症状・支援の仕方を確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。
第 11 回	テーマ	「子育てや保育で大切なこと」 ー障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもへの対応ー（担当 阿部）
	内 容	障害はないが特別な教育的ニーズのある子ー「気になる子ども」について理解しながら、配慮を必要とする子どもの援助を考える。
	授業時間外 学修	予習： 障害はないが特別な教育的ニーズのある子とは？「気になる子ども」とは？ どのような子どもなのか、まとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。 自分の生活の記録をまとめる。（次回までの1週間分を課題とする）
第 12 回	テーマ	保護者の困り（担当 阿部）
	内 容	特別な支援の実践にあたり、保護者のニーズを理解し、障害のある子どもとの直接のかかわりへの理解を深める。
	授業時間外	予習： 発達障害の特性・かかわりを再度、確認しておく。また、障害のある子ども

	学修	の保護者の方の気持ちをまとめておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。
第 13 回	テーマ	特別なニーズと保育（知的障害・発達障害） (担当 阿部)
	内 容	子ども達の思いを理解し、困り感を理解する。その中で、保育士としてどのようにかわったらいいかを理解していく。
	授業時間外 学修	予習： 知的障害・発達障害の特性と対応を再度、確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。
第 14 回	テーマ	特別なニーズと保育（聴覚障害・視覚障害・肢体不自由） (担当 阿部)
	内 容	疑似体験をしながら子ども達の思いを理解し、困り感を体験する。その中で、保育士としてどのようにかわったらいいか理解を深める。
	授業時間外 学修	予習： 聴覚障害・視覚障害・肢体不自由の特性と対応を再度、確認しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や問題点を見直す。
第 15 回	テーマ	まとめ (担当 阿部)
	内 容	これまでの授業の振り返り、特別な支援について、保育士としての考えをまとめる。
	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、問題点・理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
教科書・テキスト	ライフステージを見通した障害児の保育・教育（小林徹・栗山宣夫）株式会社みらい	
参考書・参考資料等	障害児保育（西村重稀・水田敏郎 中央法規） 小学校までにつけておきたい力と学童期への見通し（丸山美和子 かもがわ出版）	
成績評価の 方法・基準	レポート、授業の取り組みで評価する。授業参加度（15%）、領域理解の程度（50%）、「自分で考え、実践できる能力」（5）獲得の程度（35%）、提出物を含む。	
課題に対する フィードバックの方法	レポートについては紙面にてフィードバックしていく。模擬保育については口頭にて講評する。また、質問に関しては、次回、口答する。	
授業時間外学修	予習（各授業回数 30 分）、復習（各授業回数 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。レポート作成に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間） レポート作成の結果を踏まえ、自己評価するとともに、既習内容の理解を深める。	
備 考	実務経験を活かして、特別支援と学習について具体的な事例を挙げながら授業を行う。	
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。また、毎回、質問事項を記入し、口答する。	

授業科目	保育内容指導法			授業形態	演習	単位数	2 単位
担当者	大関嘉成						
ナンバリング	E21S123	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	幼児教育において育みたい資質・能力を捉えた上で、具体的な保育場面を想定するために映像資料も活用しながら計画の立案・演習を行い、その評価を行う。なお、演習においては、幼児の体験を補完することを意図した情報機器の活用法についても学ぶ。授業はグループディスカッションを含むグループワークを中心に進められ、その内容はワークシートに毎時まとめていくこととなる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の教材研究を通して当教材の可能性、実践上の注意点等を把握し、説明できる。 ・幼児の発達を促し、なおかつ教師の個性を反映させた指導案を予測できる。 ・保育実践（情報機器の活用を含む）とその研究法について説明できる。 ・評価の意義と基本的な枠組みを説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクションー教材研究とはー				
		内容	今後グループワークを進めるにあたり、グルーピングを行い、グループワークの留意点を確認する。そして、教材製作・研究の枠組みを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	教材演習（1）「しゃぼん玉」				
		内容	教材「しゃぼん玉」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	教材演習（2）「スライム」				
	第4回	内容	教材「スライム」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。				
		授業時間外学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	保育における ICT の活用				
	第4回	内容	保育における ICT の直接的利用、間接的利用に関して学び、活用の可能性を検討する。				
		授業時間外学修	予習： スマートフォン・タブレット端末の知育アプリを調べて、まとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				

第5回	テーマ	教材演習（3）「びゅんびゅんごま」
	内容	教材「びゅんびゅんごま」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。
第6回	授業時間外学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	教材演習（4）「ストローとんぼ」
第7回	内容	教材「ストローとんぼ」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。
	授業時間外学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	教材演習（5）「ストローグライダー」
	内容	教材「ストローグライダー」の演習を通して、その採用時期、注意点・対策、工夫、さらなる準備物、導入、効果に関して検討する。
第9回	授業時間外学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	評価の方法と役割
第10回	内容	評価に関する基本的用語とその時期・方法、目的を理解し、保育におけるPDCAサイクルを学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第11回	テーマ	各種評価尺度に基づく評価
	内容	実践記録を基に、その絶対評価、相対評価、個人内評価の仕方を演習し、理解する。
第12回	授業時間外学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	保育研究と実践記録の意義（VTRによる記録をもとに）
第13回	内容	前回、評価において使用した実践記録に関して、そのEvidenceとしての、また共有物としての意義を確認する。そして、行動描写法による記録の演習を行った上で、保育実践研究の方法を学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第14回	テーマ	指導案の考え方
	内容	PDCAサイクルにおけるPlan箇所の一部である指導計画について、その考え方や一般的な形式を学ぶ。
第15回	授業時間外学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	指導案の書き方
第16回	内容	指定された教材に関して、実際に見本を参照しながら指導案を書くことにより、その書き方を習得する。
	授業時間外学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 指導案を書き上げる。また、授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第17回	テーマ	指導案の精緻化

	13 回	内 容	書き上げた指導案に関して、ねらい、幼児の姿に関わる必然性、評価を踏まえ、その計画を再検討する。
		授業時間外 学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 指導案を修正する。授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	誤概念について
		内 容	自身の体験も踏まえながら、幼児がその体験を通して、土着的にかつ帰納的に習得する知識について、その成立過程と面白さについて学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	総括
		内 容	授業全般を振り返り、その確認を行うと共に、教材研究についてまとめる。
		授業時間外 学修	予習： 保育実践に至るまでの一連の流れを振り返り、要点をまとめる。 復習： 既習内容を振り返り、疑問点を確認する。
	教科書・テキスト	適宜、資料を配布する。	
参考書・参考資料等	<p>新版 遊びの指導 乳・幼児編（幼少年教育研究所編、同文書院）</p> <p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>		
成績評価の方法・基準	毎時提出するワークシート、そして最終レポートから、各領域理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（10%）、授業参加度（30%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	各回のワークシートはその次の回に、最終レポートは最終回において、採点の後、レビューする。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。（約 45 時間） 返却された提出物を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 2 時間）		
備 考	毎週、提出物があり、次回にてそれらは返却される。配布物（資料・ワークシート）が多いので、きちんと整理し、まとめておくこと。		
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	保育内容（健康）		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	高桑秀郎						
ナンバリング	E22S124	開講時期	2年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：必修 保育士：必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	子どもの心身の発育・発達について一般的な傾向と相互影響について検討していく。保育士、幼稚園教諭、保育教諭が子ども達の生活や遊びを適切に支援・指導していく際の考え方やポイントについての理解を進め、保育活動を領域「健康」の観点に立って具体的に計画・展開できる能力を培う。保育実践や映像視聴やグループディスカッションを通じて、適切な保育の進め方についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発育発達と領域「健康」が目指す指導内容について理解し、説明ができる。 ・領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。 ・子どもの経験と育ちの相関関係に関する理解と指導における観点の説明ができる。 ・授業に適切に参加し、授業内容の理解に努めている。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身に付ける。 						
授業計画	第1回	テーマ	領域「健康」の考え方				
		内容	教育基本法(2006)の主旨が幼稚園教育、保育所での活動にどう反映されているか。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読しておく 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	領域「健康」と他の領域の関係・小学校教育と領域「健康」の関連				
		内容	領域という考え方とそれぞれがどのような関係をもって関連しているかを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：保育指針・要領等で関連する部分について、目を通し、要点をまとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	健康にかかわる子どもの生活実態				
		内容	現代の子どもの生活実態とそれに伴う健康問題について考える。				
		授業時間外学修	予習：子どもの生活実態等について、新聞報道の記事を読み、まとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	体格の発達と生理機能の発達				
		内容	出生～幼児期における肉体的な発育と生理機能の発達について学ぶ				
		授業時間外学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	運動能力と動きの獲得				
		内容	運動発達の方向性と動作習熟の過程について学ぶ。				

	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 6 回	テーマ	生活習慣と動作の発達
内容		身体運動による動作が日常生活を営むことにどのように関与するかについて学ぶ。	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	子どもに多い病気
内容		子どもの時期に多い疾患と予防、対策、予防接種等について学ぶ	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	情緒・社会性の発達と運動
内容		子どもの精神活動と運動の関係性について学ぶ	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	パーソナリティの発達と運動
内容		性格や行動特性がどのように育まれていくかの過程について学ぶ。	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	望ましいパーソナリティ形成のための指導の観点と配慮のあり方
内容		子どもの経験と育ちの関係性について、保育者の関わりはどうあるべきか。	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	感覚運動的知能と概念的知能の発達と運動
内容		知的能力の発達と運動の関係性について考察する。	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 12 回	テーマ	子どもの生活指導と指導場面における情報機器の活用
内容		生活指導において、どのように情報機器を活用するか具体例を交えて学ぶ。	
	回	授業時間外 学修	予習：事前配布された資料に目を通し、課題との関連を考える。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	指導案作成の基本
内容		これまで展開してきた子どもの特徴を踏まえて、領域「健康」の目指す子どもの育ちを支える指導案のあり方・作成の考え方を学ぶ。	
	回	授業時間外 学修	予習：これまで配布された資料等に目を通し、関連することをまとめておく。 復習：授業内容を基に実践に向けた指導案作成してみる。
	第 14 回	テーマ	全身的活動（運動遊び）と指導・模擬保育の実践（グループ）
内容		グループ毎に各々が考えてきた運動遊びについて実践を行う。	
	回	授業時間外 学修	予習：指導案に基づき準備を進める。 復習：実践内容の振り返りを行い、反省点と今後の課題をまとめておく。
	第 15 回	テーマ	模擬保育の振り返り（映像資料を基に）と改善策
内容		前回の実践の映像資料を参考にグループで振り返りを行い、改善策を導く。	

	回	授業時間外 学修	予習：グループ構成員と個人の振り返りを共有しておく。 復習：これまでの授業内容を確認し、整理する。授業内で特に指摘のあったポイントについては分かりやすいようにまとめておく。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領ガイドブック（フレーベル館） また、授業中に適宜資料を配布する。		
参考書・参考資料等	シードブック 保育内容「健康」第二版（榎沢良彦、入江礼子 健帛社）		
成績評価の方法・基準	学期末の定期試験から、子どもの発育・発達に関する専門的理解の程度（60%）、保育者として子どもの望ましい育ちにどうかかわっていくか「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	定期試験については、採点后、研究室にて個別開示し、指導助言を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 20 分）、復習（各授業回 20 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてノートや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 5 時間） 定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに、理解が不十分な部分を確認し、既習内容を再度学習し、理解を深める。		
備考	—		
連絡先（質問等）	オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容（人間関係）		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	太田裕子						
ナンバリング	E22S125	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて乳幼児期の人間関係の発達を学ぶ。また、実習での体験や映像視聴を基に、指導案の作成やグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、人と関わる力を育む保育についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明ができる。 ・乳幼児期の人間関係の発達について理解し、説明ができる。 ・人と関わる力を育むための保育を構想し、指導案の作成と改善を行うことができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	子どもをとりまく人間関係				
		内容	自分自身の幼少期からこれまでの人間関係を振り返り小レポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：プレゼンテーションについての感想をまとめる。				
	第2回	テーマ	領域「人間関係」のねらい及び内容				
		内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容を学び、幼児教育において育みたい資質・能力との関わりについて考える。				
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領 P.5～6、16、保育所保育指針 P.10、14～15、18～19、24～25 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	遊びの中で育つ人との関わり				
		内容	実習での体験を振り返り、遊びの中で子どもに培われる「幼児教育において育みたい資質・能力」について、グループディスカッションを行う。				
		授業時間外学修	予習：実習日誌を読み直し、遊びの中で見られた子どもの人と関わる姿を再確認しておく。 復習：グループディスカッションについての感想をまとめる。				
	第4回	テーマ	領域「人間関係」における内容と指導上の留意点				
		内容	領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、指導上の留意点について学ぶ。				

	回	授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領 P. 16～17、保育所保育指針 P. 15、19、25～26 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 5 回		テーマ	「自立心」、「社会生活との関わり」に関する子どもの発達
		内 容	具体的な事例を踏まえ、「自立心」、「社会生活との関わり」に関する子どもの発達を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：実習日誌を読み直し、「自立心」、「社会生活との関わり」に関する子どもの姿を再確認しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 6 回		テーマ	「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの発達
		内 容	具体的な事例を踏まえ、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの発達を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：実習日誌を読み直し、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」に関する子どもの姿を再確認しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回		テーマ	領域「人間関係」の特性及び子どもの体験との関連を考慮した教材の活用（情報機器及び教材の活用を含む）
		内 容	保育実践の事例を踏まえ、協同性や人と関わる力を育む活動や遊びの展開における情報機器や教材の活用について考える。
		授業時間外 学修	予習：実習での体験を踏まえ、協同性や人と関わる力を育む活動や遊びの展開に活用できると思われる教材を書き出す。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回		テーマ	指導案の作成①協同性を育む活動
		内 容	協同性を育む活動についての指導案を作成する。
		授業時間外 学修	予習：協同性を育むための具体的な活動内容を考える。 復習：作成した指導案を見直し、保育実践を具体的にイメージした上で推敲する。
第 9 回		テーマ	指導案の作成②人と関わる力を育む活動
		内 容	人と関わる力を育む活動についての指導案を作成する。
		授業時間外 学修	予習：人と関わる力を育むための具体的な活動内容を考える。 復習：作成した指導案を見直し、保育実践を具体的にイメージした上で推敲する。
第 10 回		テーマ	保育実践の振り返りと改善
		内 容	直近の実習における保育実践の記録を踏まえた省察、評価、改善案の考察を行い、プレゼンテーションを行う。
		授業時間外 学修	予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：プレゼンテーションについての感想をまとめる。
第 11 回		テーマ	子どもと保育者の関わり①自立心の育ち（映像教材の活用を含む）
		内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの自立心を育む保育者の関わりについて考える。
		授業時間外 学修	予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：授業内容を振り返り、授業終了時に配付したワークシートを完成させる。
第 12 回		テーマ	子どもと保育者の関わり②自己主張と他者理解の育ち（映像教材の活用を含む）
		内 容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの自己主張と他者理解を育む保育者の関わり

	回		について考える。
	授業時間外学修		予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：授業内容を振り返り、授業終了時に配付したワークシートを完成させる
	第13回	テーマ	子どもと保育者の関わり③協同性の育ち（映像教材の活用を含む）
		内容	保育実践の映像視聴を踏まえ、子どもの協同性を育む保育者の関わりについて考える。
	授業時間外学修		予習：直近の実習を振り返り、事前配付したワークシートを完成させる。 復習：授業内容を振り返り、授業終了時に配付したワークシートを完成させる。
	第14回	テーマ	乳幼児期の人との関わりと、小学校以降の生活や教科とのつながり
		内容	乳幼児期の人との関わりの重要性を学び、小学校以降の生活や教科とのつながり、現在の自分に求められる人と関わる力とのつながりを考える。
		授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領 P. 9、保育所保育指針 P. 30～31、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P. 9 を読む。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第15回	テーマ	領域「人間関係」に関わる現代的課題と保育実践の動向
		内容	子どもをとりまく人間関係について、高度成長期頃からの事例を踏まえ、現代における特徴と課題、保育実践の動向について考える。
		授業時間外学修	予習：新聞記事等を参考にして、現代の子どもをとりまく人間関係についての課題にはどのようなものがあるかを書き出す。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
参考書・参考資料等	授業中に適宜資料を配付する。		
成績評価の方法・基準	最終レポートと毎回の授業後に提出する小レポートにより、乳幼児期の人間関係の発達、人と関わる力を育む保育についての理解の程度（70%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（20%）、授業参加度（10%）で評価する。最終レポートについては、採点后講評する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業にて解説する。最終レポートについては、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。最終レポート作成に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 8 時間）		
備考	—		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育内容（環境）の指導法			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	大類豊太郎						
ナンバリング	E22S126	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：必修 保育士：必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	幼稚園教育要領と領域「環境」を解説し、領域「環境」に関わる身近な素材で「作って遊ぶ活動」の題材を選ばせ、グループ毎に模擬保育を実演させ、子どもと取り巻く事象のかかわりと事象そのものへの理解を深め、領域「環境」における保育内容の指導法を探る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」の意義を考えることができる。 ・身の回りの事象について子どもの活動に関わる教材としての価値を探ることができる。 ・グループ毎に、1つの題材を担当し、教材化と指導法について、保育者として模擬保育演習ができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる。」を身につける。 <p>テーマ：幼児が強い興味や関心を示す身近な事象の理解と子どもへの下ろし方を探る。</p>						
授業計画	第1回	テーマ	領域「環境」の位置づけ、ねらい及び内容				
		内容	演習の概要と模擬保育のグループ分担				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	領域「環境」の内容の取扱い				
		内容	領域「環境」の保育活動の理解とグループ分担の日程及び題材の調整				
	第3回	授業時間外学修	予習：幼稚園教育要領「ねらいと内容」を熟読する。 復習：領域「環境」の保育活動の題材を調べる。				
		テーマ	領域「環境」の保育活動の教材研究と指導案（情報機器の活用も含む）と模擬保育演習の準備				
		内容	作って遊ぶ保育活動の準備の仕方とグループに分かれての教材研究				
	第4回	授業時間外学修	予習：どんな保育活動をするかを教科書で調べる。 復習：保育者役としての教材研究（作って遊ぶ活動の準備）				
		テーマ	模擬保育演習（科学遊び：空気・水の遊び）*学生の題材選定により変更有り。				
		内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 <p>*保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。</p>				
	授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意）					

	学修	復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
第5回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：音・光の遊び）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
	授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
第6回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：磁石・電気遊び）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
	授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
第7回	テーマ	模擬保育演習（科学遊び：簡単なおもちゃ作り）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
	授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
第8回	テーマ	模擬保育演習（季節遊び：春や夏の活動）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。 *指導案作成レポート用紙配布（次時以降提出する）
	授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）
第9回	テーマ	模擬保育演習（季節遊び：秋や冬の活動）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 *保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。
	授業時間外学修	予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意） 復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）

第10回	テーマ	模擬保育演習（数や量を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 <p>*保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。</p>
	授業時間外学修	<p>予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意）</p> <p>復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）</p>
第11回	テーマ	模擬保育演習（図形を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 <p>*保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。</p>
	授業時間外学修	<p>予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意）</p> <p>復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）</p>
第12回	テーマ	模擬保育演習（時間・空間を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 <p>*保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。</p>
	授業時間外学修	<p>予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意）</p> <p>復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）</p>
第13回	テーマ	模擬保育演習（文字を使った遊び）*学生の題材選定により変更有り。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループ2～3名で保育者役になり、他の学生は子ども役になって、「作って遊ぶ活動」の模擬保育を行う。（模擬保育演習の時間は約60分） ・演習終了後、題材と活動についての解説等を行う。 <p>*保育者役の学生は、具体的な題材を決め、教材研究と活動の準備を事前に実施して演習に臨む。</p>
	授業時間外学修	<p>予習：保育者役（模擬保育活動の教材研究）、幼児役（指示された物の用意）</p> <p>復習：保育者役（感想レポート作成）、幼児役（活動内容の整理）</p>
第14回	テーマ	模擬保育演習の活動について記録映像資料を活用しての振り返りと記録映像の活用方法の考察
	内容	<p>演習を模擬保育演習の記録映像で振り返り、活用方法を探る。</p> <p>作って遊ぶ保育活動の素材についての理解を深め、指導案を作成する。</p>
	授業時間外学修	<p>予習：保育者役の記録写真を整理し、発表の準備をする。</p> <p>復習：映像資料の活用のおまとめをする。</p>
第15回	テーマ	まとめ（幼稚園、保育所、認定こども園における領域「環境」の位置づけ及び小学校の学習との関連）
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所、認定こども園における領域「環境」の法的根拠と主な相違点の解説を行う

		う。
	授業時間外 学修	予習：幼稚園教育要領領域「環境」内容を読み返す。 復習：領域「環境」の保育活動をまとめる。
教科書・テキスト	保育内容環境の実際（伊神大四郎他 建帛社）	
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
成績評価の方法・基準	学生に対する評価：①担当した題材を用いた模擬保育活動の実演とその反省レポート（30%） ②身近な素材及び事象と保育活動の関わりを授業成果として指導案にまとめる力（40%） ③「自分で考え、実践できる能力」(2) 獲得の程度（20%）④演習参加の状況（10%）	
課題に対するフィードバックの方法	レポート（模擬保育の感想や指導案）は採点后、講評を行う。	
授業時間外学修	予習は、作って遊ぶ保育活動の教材研究と保育者役グループ毎の話し合いは責任持って実施する（約 30 分）。演習に使う材料や道具は保育者役の学生が確実に準備する。 復習は、「作って遊ぶ保育活動についての保育者役の感想」（約 30 分）と「実践してみたい題材での指導案」（約 60 分）のレポートを作成する。	
備考	幼稚園、保育所等の実務経験はないが、小学校教員として 37 年間勤務し、理科教育の実践や管理職の経験を有する。	
連絡先（質問等）	授業前後に、講師控室や教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	保育内容（言葉）		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	柏倉弘和						
ナンバリング	E21S127	開講時期	2年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼免:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	言葉の特性や発達についての知識を獲得させるとともに、伝えることの重要性や難しさ、言語感覚の大切さについて、映像資料や事例、絵本等を用いて考えさせる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の特性や発達過程、言葉による伝え合いの大切さを理解することができる。 言葉のやりとりを楽しんだり、言語感覚を豊かにする保育活動を考えることができる。 「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる。」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	記号や意味、文脈等の言葉の特性について				
		内容	記号性や意味、文脈とは何か、具体的な言葉に即して考え、言葉の基本的な特性について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	言葉によるコミュニケーションについて				
		内容	言葉によるコミュニケーションがどのようにして成立するか学ぶ。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、どのような時にコミュニケーションが成立したか考えておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	言葉で伝える難しさについて				
	第4回	内容	「奇跡のひと」という映画を視聴し、言葉で伝えることの難しさを感じ取る。				
		授業時間外学修	予習： 自分の体験を振り返り、どんな時に言葉を使う難しさを感じたか整理しておく。 復習： 自分が映画の主人公の立場であったら、どのような生活を送っていたか想像し、まとめておく。				
	第5回	テーマ	言葉の発達過程について				
		内容	言葉の発達過程を学び、幼児期の望ましい生活について考える。				
	第5回	授業時間外学修	予習： 自分の幼児期を振り返り、言葉についての記憶をまとめる。 復習： 実習で出会った幼児たちの言葉の発達段階の違いについて整理する。				
		テーマ	幼児を取り巻く言語環境について				
	第5回	内容	幼児を取り巻く言語環境の変化と社会の変化について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 幼児がよく見るテレビ番組について調べておく。				

	学修	復習： SNSが幼児に与える影響について調べる。
第6回	テーマ	幼児と絵本について
	内容	絵本を資料として用いながら、絵本が幼児に与える影響や読み聞かせについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 幼児が好む絵本を調べておく。 復習： 幼児にふさわしい絵本を選び、読み聞かせを練習する。
第7回	テーマ	実習の映像資料を活用し、導入について考える。
	内容	実習の映像資料を視聴して、導入の際の話し方や話す内容について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習において、導入はどのように行っていたか振り返り、整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、導入の内容や方法について考える。
第8回	テーマ	ごっこ遊びと言葉について
	内容	ごっこ遊びが言葉の発達に与える影響について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： ごっこ遊びについての自分の体験を思い出し、まとめておく。 復習： 実習におけるごっこ遊びの実態について振り返り、整理する。
第9回	テーマ	通じ合いについて
	内容	通じ合いが成立するためにはどんなことが重要か学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 通じ合った経験を思い出し、まとめておく。 復習： 幼児との通じ合いが成立するためにはどんなことに留意すればよいか考える。
第10回	テーマ	言葉と信頼関係について
	内容	言葉の性質や特徴と信頼関係との関わりについて学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 信頼関係についての考えをまとめておく。 復習： 信頼関係を成立させるために重要なことを整理する。
第11回	テーマ	実習の映像資料を活用し、振り返りを行う。
	内容	実習の映像資料を視聴し、適切な言葉の使い方について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 実習を振り返り、自分の言葉の使い方を思い出して整理しておく。 復習： 責任実習を想定し、適切な言葉について具体的に考える。
第12回	テーマ	言葉と音楽、アニメのテーマソングやパロディについて
	内容	アニメや幼児番組を視聴して、言葉と音楽、映像等の関係について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 幼児がよく見るアニメ番組について調べておく。 復習： 保育における音楽や映像の活用の仕方について考える。
第13回	テーマ	言語感覚について
	内容	「にほんごであそぼ」等の幼児番組を視聴して、言語感覚の重要性について学ぶ。
	授業時間外学修	予習： 幼児番組を視聴して、言葉がどのように扱われているか整理しておく。 復習： 言語感覚を磨くのにふさわしい絵本等を選んでみる。
第14回	テーマ	言語感覚を豊かにする活動を展開する指導案について
	内容	言語感覚を豊かにすることをねらいとした保育案を考え、指導案を作成する。
	授業時間外学修	予習： 言語感覚を豊かにする活動案をいくつか考えておく。 復習： 指導案に即して腹案を考えてみる。
第15回	テーマ	伝えるということについて(まとめ)
	内容	これまでの授業を振り返り、伝えるということについて自分の考えをまとめる。
	授業時間外学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点等をまとめる。

	学修	復習： 疑問点等について既習内容を確認する。
教科書・テキスト	なし。	
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
成績評価の方法・基準	授業中に行う演習により、言葉の特性や発達過程についての理解の程度（30%）、言葉を活用した保育の構想や改善の達成度（30%）、「自分で考え、実践できる能力」（2）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された演習ペーパー等については、次回の授業において解説する。	
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。各授業の資料や返却された演習ペーパーを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 15 時間）	
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。中学校教諭としての実務経験を活かして、言葉の性質や特徴についての理解を深め、言葉を適切に使えるよう事例を挙げながら授業を行う。	
連絡先（質問等）	オフィスアワー 金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	幼児理解と教育相談			授業形態	演習	単位数	2 単位	
担当者	浅倉次男、小川友美							
ナンバリング	E22S131	開講時期	2 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回	
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育（乳児教育含む）に必要な「こころ」、「身体」、「行動」の学習 ・教育相談に必要な基礎的知識（臨床心理学におけるカウンセリング理論と演習）の学習 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児（乳児含む）理解についての知識や基礎的態度を身に付ける。 ・学校（幼稚園、保育園を含む）における教育相談の意義と理論を理解する。 ・「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。 							
授業計画	第1回	テーマ	人間のこころとからだの発達、人格形成について学習する				(担当 小川)	
		内容	「人間」について発達の視点から、こころ、からだ、人格形成について理解する。					
		授業時間外学修	予習： 教科書P25 からだの発達、P33 こころの発達、P45 パーソナリティー形成の視点からを読んでおく。 復習： 講義内容と教科書の確認					
	第2回	テーマ	幼児（乳児含む）の「こころ」について理解する				(担当 小川)	
		内容	ピアジェの発達理論を中心に乳児期、幼児期の特徴について理解する。					
	第3回	授業時間外学修	予習： 教科書P33 こころの発達の乳児期・幼児期のこころの箇所を熟読して授業に臨むこと。 復習： 講義内容から乳児期、幼児期のこころの特徴を確認理解する。					
		テーマ	乳児期・幼児期の「からだ」について理解する				(担当 小川)	
	第4回	内容	乳児期・幼児期のからだ（身長、体重、各臓器等）及び機能の発達について理解する。					
		授業時間外学修	予習： 教科書P23 からだの発達特に乳児期・幼児期を予習して授業に臨むこと。 復習： 乳児期・幼児期のからだの発達について講義内容と教科書から確認する。					
	第5回	テーマ	乳児期・幼児期の「行動」について理解する				(担当 小川)	
		内容	乳児期・幼児期の行動の特徴（正常・異常）特に、ピアジェの発達段階と乳幼児期の言語、社会性について理解する。					
	第5回	授業時間外学修	予習： 教科書P33 乳児期からP36 幼児期まで予習して授業に臨むこと。 復習： 授業内容と教科書とを照合し、乳幼児期の行動の特徴を確認する。					
		テーマ	幼児（乳児含む）に関わる人に求められる倫理観				(担当 小川)	
	第5回	内容	QOL 論、ICF の視点から幼児を担当するにあたって大切なことを理解する。					
		授業時間外学修	予習： 教科書 P4 子どもとかかわる人に求められることを予習して授業に臨むこと。 復習： QOL と ICF について理解し、子どもを担当する職員にとって大切な事柄に					

			ついて理解する。
第6回	テーマ	障害児について理解する	(担当 小川)
	内容	正常(健常)、異常(障害)を理解し「障害児」の概念について学習する。	
	授業時間外学修	予習: 教科書 P68 評価とアセスメントを予習して授業に臨むこと。 復習: 障害児、特に知的障害児(精神遅滞児)について理解する。	
第7回	テーマ	自閉症スペクトラム障害について理解する	(担当 小川)
	内容	自閉症スペクトラム障害の特性について理解する。	
	授業時間外学修	予習: 教科書 P55 発達障害とは、P179 LD と ADHD、P87 自閉性障害とアスペルガー障害についてを予習して授業に臨むこと。 復習: 自閉症スペクトラム障害の特性を確認しておく。	
第8回	テーマ	特別支援教育について理解する	(担当 小川)
	内容	特別支援教育と特別支援学校の使命と役割について理解する。	
	授業時間外学修	予習: 教科書 P76 ICF と特別支援教育、P86 特別支援学校の使命と役割を予習して授業に臨むこと。 復習: 授業内容と教科書から特別支援教育と特別支援学校について理解し確認しておく。	
第9回	テーマ	自己理解(交流分析)について理解する	(担当 浅倉)
	内容	対人を専門とする職員にとって自己理解が重要なことを理解する。	
	授業時間外学修	予習: 教科書 P58 不安と恐怖について予習して授業に参加すること。 復習: エゴグラムについて理解し、自分の特性(持ち味)を理解する。	
第10回	テーマ	教育相談について理解する	(担当 浅倉)
	内容	教育相談(児童、家族、教職員)の必要性と重要性を理解する。	
	授業時間外学修	予習: 教科書 P220 不登校とスクールカウンセリングを予習して授業に臨むこと。 復習: 教職員にとって教育相談の必要性と大切さを確認する。	
第11回	テーマ	カウンセリングの理論(主にクライアント中心カウンセリング)について理解する	(担当 浅倉)
	内容	クライアント中心カウンセリングの理論を習得する。	
	授業時間外学修	予習: 教科書 P237 子どもへのカウンセリング、P243 家族へのカウンセリング、P249 医療スタッフへのカウンセリングを読んでカウンセリングの活用について理解しておくこと。 復習: クライアント中心カウンセリングの理論を習得する。	
第12回	テーマ	カウンセリングの演習	(担当 浅倉)
	内容	演習を通し、クライアント中心カウンセリングを身に付ける。	
	授業時間外学修	予習: 資料「クライアント中心カウンセリング」を予習して授業に臨むこと。 復習: クライアント中心カウンセリングを実践できるようになること	
第13回	テーマ	教育相談(カウンセリング)の役割と効果	(担当 浅倉)
	内容	演習を通し、教育相談の役割と効果を理解する。	
	授業時間外学修	予習: クライアント中心カウンセリングの理論と演習を確認しておく。 復習: 演習後の課題を明らかにし解決できるようにしておく。	
第	テーマ	不登校と教育相談について理解する	(担当 浅倉)

	14 回	内 容	不登校児にとって教育相談の重要性を理解する。
		授業時間外 学修	予習： 再度、教科書 P220 不登校とスクールカウンセリングを読んで授業に臨むこと。 復習： 「不登校」と「教育相談」の関連性を理解し、心理臨床（スクールカウンセリング）の大切さを理解する。
	第 15 回	テーマ	まとめ、乳幼児理解と心理支援について理解する (担当 浅倉)
		内 容	乳幼児の心身を理解し、心理支援（カウンセリング）ができる。
		授業時間外 学修	予習： 再度教科書の中で乳児期、幼児期の心身に関するところを読んでおく。 復習： 授業内容と教科書を照合して幼児（乳児含む）理解と教育相談の重要性を理解する。
教科書・テキスト		「こころ」「からだ」「行動」へのアプローチ 子どもを理解する（浅倉次男監修 へるす出版）	
参考書・参考資料等		よくわかる臨床心理学（下山晴彦編 ミネルヴァ書房）	
成績評価の方法・基準		課題提出（3回）により、専門的理解の程度（50%）、「コミュニケーション能力」（4）獲得の程度（35%）、授業参加度（15%）で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法		課題については、講評と解説を行う。	
授業時間外学修		予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。（約45時間） 返却された提出物を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約2時間）	
備 考		—	
連絡先（質問等）		授業前後の時間に教室等にて質問等を受け付ける。	

授業科目	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	高桑秀郎、花田嘉雄、柏倉弘和						
ナンバリング	E22S132	開講時期	2年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	他者の指導案や実践記録を観て分析・考察したり、園の行事を企画したりすることにより、保育実践の進め方や留意点、幼児の捉え方等について学ぶ。また、これまでの実習の振り返りやグループディスカッション等を通して自分の考えを深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践の特徴について理解することができる。 ・実践を分析する意義について理解することができる。 ・他者の実践を観てしっかり捉え、分析することができる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	保育実践とは何か（担当 柏倉弘和）				
		内容	保育実践の特徴について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第2回	テーマ	実践分析について（担当 柏倉弘和）				
		内容	実践分析の意義と方法について学び、実際に実習の記録映像を視聴する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： これまでの実習を振り返り、課題を整理しておく。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
		テーマ	保育実践における導入について（担当 柏倉弘和）				
	第4回	内容	実習の記録映像の導入の場面を視聴し、導入のねらいや方法について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： これまでの実習において自分の実践してきた導入について振り返り、課題を整理しておく。 復習： 導入を実践する際の留意点をまとめ、自分なりの導入の仕方を考えてみる。				
	第5回	テーマ	保育実践における説明について（担当 柏倉弘和）				
	第6回	内容	実習の記録映像の説明の場面を視聴し、説明の方法や留意点について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： これまでの実習において自分の実践してきた説明について振り返り、課題を整理しておく。 復習： 説明を実践する際の重要事項をまとめ、自分なりの説明の仕方を考えてみる。				
	第7回	テーマ	保育実践における発表について（担当 柏倉弘和）				

5 回	内 容	実習の記録映像の発表の場面を視聴し、発表の方法や留意点について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： これまでの実習において自分の実践してきた発表について振り返り、課題を整理しておく 復習： 発表を実践する際の重要事項をまとめ、自分なりの発表の仕方を考えてみる。
第 6 回	テーマ	学級経営について。子どもたちとの信頼関係の構築の仕方（担当 高桑秀郎）
	内 容	子どもが園生活を送り、発達していくために必須の事項について学ぶ。
第 7 回	授業時間外 学修	予習：自分の実習記録を基に、子どもとの関係を振り返り、まとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	保育案作成の基本（担当 高桑秀郎）
第 8 回	内 容	長期、短期の指導計画作成の基本について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：自分が今まで作成してきた日案を見直し、保育の意図について考えておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	保育者の育ちへの願いを保育活動に反映させる（担当 高桑秀郎）
	内 容	映像資料を視聴して、保育者の願いがどのように活動に反映されているかを探る。
第 10 回	授業時間外 学修	予習：これまで配布された資料、ノートについて重要な点をまとめておく。 復習：配布された日案を再確認し、保育者が何を求めた活動なのかを探しておく。
	テーマ	保育案の再構成 保育者の願いを達成する構成にするには（担当 高桑秀郎）
第 11 回	内 容	映像資料を視聴して、保育者の願いを達成する活動とそうでない活動とを見極め、保育活動全体の活動構成を再構築する。
	授業時間外 学修	予習：これまで配布された資料、ノートについて重要な点をまとめて、共通したテーマは何か探しておく。 復習：配布された日案を再確認し、保育者が何を求めた活動なのかを探しておく。
第 12 回	テーマ	保育活動についての考察、5回の内容のまとめ（担当 高桑秀郎）
	内 容	前回の課題について、教員の見解と説明
第 13 回	授業時間外 学修	予習：返却されたレポート内容とコメントを振り返っておく 復習：配布された資料を基に、保育活動計画で重要になる点をまとめておく。
	テーマ	園行事を企画する①（担当 花田嘉雄）
第 14 回	内 容	行事についてのポイントを整理する。グループに分かれて園行事（遠足）の企画を考える。
	授業時間外 学修	予習： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P.11～12 を熟読する。 復習： グループごとに企画した遠足についての留意点等をまとめておく。
第 15 回	テーマ	園行事を企画する②（担当 花田嘉雄）
	内 容	遠足の下見のポイントを整理し、実際にグループごとに下見をする。
第 16 回	授業時間外 学修	予習： 下見する目的地への交通手段等についてグループごと打合せをしておく。 復習： 下見時に記録した画像を整理して提出する。
	テーマ	園行事を企画する③（担当 花田嘉雄）
第 17 回	内 容	下見を基に、園行事の企画を発表用ポスターにまとめる。
	授業時間外 学修	予習： 下見を基に、園行事の企画を発表用ポスターにまとめる。 復習： 発表用ポスターを完成させる。
第 18 回	テーマ	園行事と保護者支援について（担当 花田嘉雄）

	14 回	内 容	園行事の前後における保護者支援について整理する。後半は保護者支援の内容のDVDを視聴する。
		授業時間外 学修	予習： 普段の保育と行事との前後の繋がりについて考えておく。 復習： 視聴した DVD についてのレポートをまとめて提出する。
	第 15 回	テーマ	園行事を企画する④ (担当 花田嘉雄)
		内 容	グループごとに企画した遠足を発表し、講評を行う。
		授業時間外 学修	予習： 発表する内容をまとめておく。 復習： 発表についてのレポートをまとめて提出する。
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	<p>専門家として教師を育てる (佐藤 学 岩波書店)</p> <p>指導計画法 (小田豊・神永美津子 北大路書房)</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</p>		
成績評価の方法・基準	<p>授業中の演習とレポートにより、保育実践の特徴や分析についての理解の程度 (50%)、「自分で考え、実践できる能力」(4) 獲得の程度 (35%)、授業参加度 (15%) で評価する。</p> <p>高桑、花田、柏倉が持ち分の授業でそれぞれ評価し、最終的に合算して算出する。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された演習ペーパー等については、コメントを入れ返却し、次回の授業において解説する。		
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。各授業ごとの演習やレポートを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。(約 60 時間)		
備 考	-		
連絡先 (質問等)	<p>オフィスアワー</p> <p>高桑：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>花田：金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>柏倉：金曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	幼児と音楽A（器楽）		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	白崎直季、吉田美紀、佐々木寿子、若狭智子、佐藤慈成					
ナンバリング	E21S133	開講時期	1年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児：必修 保育士：選択必修 主事任用：		実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	この授業の目的は、音楽の基本的な知識やピアノの演奏技術の基礎をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。また、保育者に必要な音楽表現力を発表などを通して身に付ける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な音楽理論を理解し、ピアノの演奏に必要な知識を身に付ける。 ・童謡、幼児の歌などの簡易伴奏を弾くことができる。 ・コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 					
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクション			
		内容	授業の概要について理解し、楽器に触れる楽しさを味わう。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 手遊びや、それぞれに与えられた課題曲を練習する。			
	第2回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（1）音名について			
		内容	音名と、鍵盤の位置関係について学び、課題曲を実践する。			
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。				
		復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。				
	第3回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（2）読譜について			
		内容	テキストや配布資料を用いて、読譜についての知識を身につける。			
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。				
		復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。				
	第4回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（3）リズムと拍子①			
内容		テキストや配布資料を用い、基本的な音符の種類と休符、拍子について学ぶ。				
授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。					
	復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。					
第5回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（4）リズムと拍子②				
	内容	リズム譜を読み、簡単なリズム打ちを実践する。				
授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。					
	復習： リズム打ち、課題曲の練習をする。					
第6回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（5）コード進行①				
	内容	基本的なコード進行について学美、実践する。				
授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。					

	学修	復習： コード進行、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第7回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（6）コード進行②
	内容	セブンス・コードについて学び、実践する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： セブンス・コード、それぞれに指導を受けた課題曲を練習し、コードの種類についてまとめる。
第8回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（7）コード進行を使った伴奏付け
	内容	コード進行を用い、伴奏の付けかたについて学び、実践する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： コード進行、課題曲の練習をする。
第9回	テーマ	各自の進度に応じた学習（1）こどもの歌
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれ子どもの歌についての課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 手遊びの資料を収集する。こどもの歌についての課題曲を準備する。 復習： 学修した手遊びをノートにまとめ、いつでもできるように練習をする。
第10回	テーマ	各自の進度に応じた学習（2）季節の歌
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれ季節の歌についての課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 季節の歌についての課題曲を準備する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第11回	テーマ	各自の進度に応じた学習（3）弾き歌い①
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれ弾き歌いについての課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 弾き歌いについての課題曲を準備する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第12回	テーマ	各自の進度に応じた学習（4）弾き歌い②ピアノ伴奏での弾き歌い
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれ弾き歌いについての課題を実践する。
	授業時間外学修	予習： 弾き歌いについての課題曲を準備する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第13回	テーマ	各自の進度に応じた学習（5）実技試験に向けての実践①
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
	授業時間外学修	予習： 課題曲の準備をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第14回	テーマ	各自の進度に応じた学習（6）実技試験に向けての実践②
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第15回	テーマ	各自の進度に応じた学習（7）実技試験に向けての実践③
	内容	グループレッスンにおいて、それぞれ習得した課題曲をグループ内で発表する。
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第16回	実技試験
教科書・テキスト	(教) 歌唱教材伴奏法 (教育芸術社) (教) ピアノ小曲集1 (音楽之友社)	

	(教) こどもの歌ベストテン (ドレミ出版)
参考書・参考資料等	授業時に資料を適宜配布する。
成績評価の方法・基準	実技試験と授業後に提出するレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度 (70%)、「自分で考え、実践できる能力」(1) 獲得の程度 (20%)、授業参加度 (10%) で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	実技試験について、採点后講評を行う。
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。
備考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。
連絡先 (質問等)	オフィスアワー 火曜日 12:30~12:55 その他、授業前後、アポイントメントにより質問を受け付ける。

授業科目	幼児と音楽B（器楽）		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	白崎直季、吉田美紀、佐々木寿子、若狭智子、佐藤慈成					
ナンバリング	E21S134	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児：選択必修 保育士：選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	この授業の目的は、豊かな音楽表現のための知識やピアノ演奏技術の向上、音楽表現活動に関連した教材研究をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。また、グループワークや発表を通して豊かな表現活動を幼児の前で実践するための力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コード進行を理解し応用力を身に付け、簡易伴奏を弾くことができる。 ・童謡、幼児の歌などをピアノの弾き歌いの技術を向上させる。 ・人前で弾く経験を重ねることにより、保育現場での実践につなげる力を養う。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 					
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクション			
		内容	授業の概要について理解し、自分自身の課題設定を行う。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 手遊びや、それぞれに与えられた課題曲を練習する。			
	第2回	テーマ	教育実習に向けての課題研究（1）手遊び			
		内容	グループワークを通して、様々な種類の手遊びを教え合い、レパトリーを増やしていく。			
	第3回	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。			
		テーマ	教育実習に向けての課題研究（2）弾き歌い			
	第4回	内容	課題発表会に向けての弾き歌いの実践をする。			
		授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。			
	第5回	テーマ	課題発表会			
		内容	課題研究で準備した内容を発表し、振り返りをする。			
		授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 発表内容の振り返りをまとめる。			
	第5回	テーマ	弾き歌い（1）春の歌			
		内容	春の季節の課題曲を設定し、実践する。			
	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。				

	学修	復習： それぞれに指導を受けた課題曲の練習をする。
第 6 回	テーマ	弾き歌い（2）夏の歌
	内 容	夏の季節の課題曲を設定し、実践する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 7 回	テーマ	弾き歌い（3）秋の歌
	内 容	秋の季節の課題曲を設定し、実践する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 8 回	テーマ	弾き歌い（4）冬の歌
	内 容	冬の季節の課題曲を設定し、実践する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 9 回	テーマ	伴奏法について（1）左手で伴奏するパターン
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ左手での伴奏法の課題を実践する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 10 回	テーマ	伴奏法について（2）両手で伴奏するパターン
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ両手で弾く伴奏法の課題を実践する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 11 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（1）実技試験に向けての実践①
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の準備をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 12 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（2）実技試験に向けての実践②
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 13 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（3）実技試験に向けての実践③
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 14 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（4）実技試験に向けての実践④
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 15 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（5）実技試験に向けての実践⑤
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ習得した課題曲をグループ内で発表する。
	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。

	第 16 回	実技試験
教科書・テキスト	(教) 歌唱教材伴奏法 (教育芸術社) (教) ピアノ小曲集 1 (音楽之友社) (教) こどもの歌ベストテン (ドレミ出版)	
参考書・参考資料等	授業時に資料を適宜配布する。	
成績評価の方法・基準	実技試験と授業後に提出するレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度 (70%)、「自分で考え、実践できる能力」(2) 獲得の程度 (20%)、授業参加度 (10%) で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	実技試験について、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。	
備考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワー 火曜日 12:30~12:55 その他、授業前後、アポイントメントにより質問を受け付ける。	